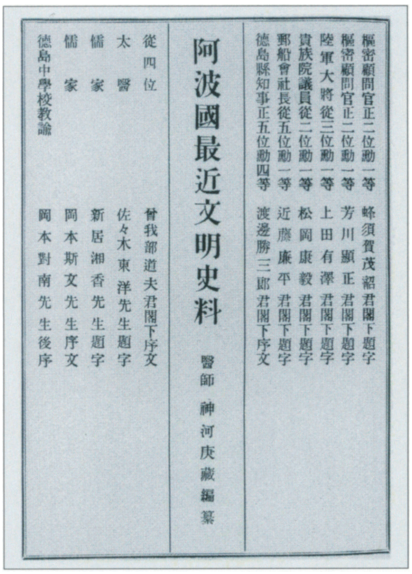
阿波の名医　神河庚蔵

図１　神河庚蔵 氏

神河庚蔵（かんがわこうぞう、一八五一－一九二六、図一）は、神河簾介の二男として、徳島市幟町に生まれた。青年時代には、漢学を湯浅翠越に、儒学を岡本晤室に学んだ後、藩医学校（巽浜医学校）に明治三年に入学。優秀であったため、翌年には官費生として大学東校（東京大学の前身）に進んで医学を修めることに。卒業後は、佐々木東洋や英医ヴィルスのもとで研鑽を続けていた。

明治一三年（一八八〇年）に徳島医学校が設置されることとなり、その際に三浦浩一校長に請われて帰郷。当時の医学校の名簿をみると、校長兼一等教諭、三浦浩一、三等教諭・神河庚蔵など、一二～一三人の職員が記載されている。診療と教育に携わった後、明治二二年に徳島市富田浦町で開業した。診療だけではなく、初代の徳島市医師会長（明治四一～四三年）を務め、医政にも大きく貢献。



樞密顧問官正二位勳一等　蜂須賀茂韶君閣下題字
樞密顧問官正二位勳一等　芳川顯正君閣下題字
陸軍大將從三位勳一等　上田有澤君閣下題字
貴族院議員從二位勳一等　松岡康毅君閣下題字
郵船會社長從五位勳一等　近藤廉平君閣下題字
徳島縣知事正五位勳四等　渡邊勝三郎君閣下序文

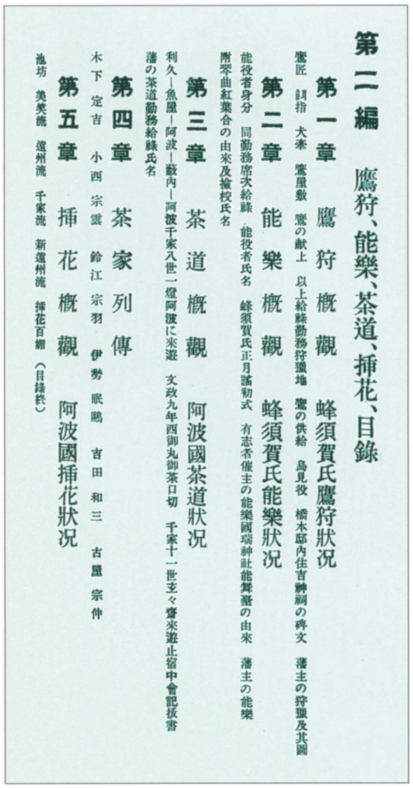
阿波國最近文明史料　醫師　神河庚蔵編纂

從四位　太醫　曾我部道夫君閣下序文
儒家　佐々木東洋先生題字
儒家　新居湘香先生題字
儒家　岡本斯文先生序文
徳島中學校教諭　岡本對南先生後序

図２　阿波國最近文明史料の表紙

明治四二年に種痘法が公布されたため、県下では痘瘡の撲滅と予防が行われた。同年には、徳島市医師会の徳島市立伝染病院に対する建議や上下水道敷設の建議など、公衆衛生学的に重要な活動にも関与していくことになる。

神河庚蔵は、単に医療や医政だけはなく、他に大きな仕事を成し遂げた。「阿波國最近文明史料」（図二）の刊行（大正四年）である。蜂須賀氏の入国から廃藩置県（明治四年）までの藩政に加え、経済、学問、文学、美術、宗教、風俗、行事、人物などの史実を、忠実にまとめあげた（図三）。この中には鷹狩の記載（図四）や戯画（図五、六）などもみら



第二編　鷹狩、能樂、茶道、挿花、目錄

第一章　鷹狩概觀　蜂須賀氏鷹狩狀況
鷹匠　餌指　大塚　鷹屋敷　鷹の獻上　與上給錄勤務狩場　鷹の供給　島見役　檜木邸内住吉神祠の碑文　藩主の狩獵及其國

第二章　能樂概觀　蜂須賀氏能樂狀況
能役者身分　同勤務庶人給錄　能役者氏名　蜂須賀氏正月謠初式　有志者催主の能樂國瑞神社能舞臺の由來　藩主の能樂
階梯曲紅葉合の由來及後校氏名

第三章　茶道概觀　阿波國茶道狀況
利久－魚屋－阿波－藍内－阿波千家入世一傳阿波に來遊　文政九年四御丸御茶口切　千家十一世玄々齋來遊止宿中會記抜書
藩の茶道勤務給錄氏名

第四章　茶家列傳
木下定吉　小西宗雲　鈴江宗羽　伊勢眠鷗　吉田和三　古屋宗伴

第五章　挿花概觀　阿波國挿花狀況
池坊　美笑流　遠州流　千家流　新遠州流　挿花百卿（目錄於）

図３　阿波國最近文明史料の目次

れる。一開業医が著した書物としては、阿波医学史上、最も高く評価されるものとされている。

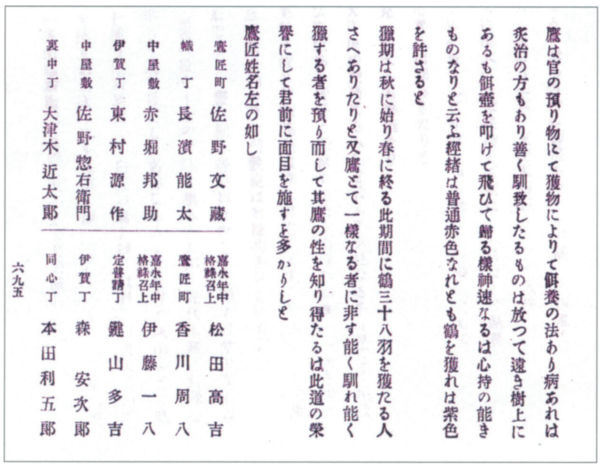
大正初期は数々の名著が出版された時期であった。小杉榲邨による「阿波国徴古雑抄」（同二年）、「阿波藩民政資料」（三年）、徳島医学会常会百回記念号「徳島医学会沿革史」（五年）などがある。

文筆家でもあった庚蔵自身が記した「自伝碑文」があるので、興味深い箇所を列挙してみよう。「明治五年一月、県費修業の命有り。大学東学校寮に入る。九月、文部省は学制を改革し、諸県の学制を放つ。予は資を失い、なす所を知らず。」「関寛（せきゆたか）先生に…（相談したところ）、先生其の友佐々木東洋先生に請いて、調薬生となす。ここにおいて、予佐々木先生の門に入る。…」「医を以って業となし、かたわら徳島市医会会頭となること、一七年。県市連合医会頭もまた一三年。後小間を得て、阿波国最近文明史料を編集し、市小冊子を成す。」

「近ごろ芸園を試み、灌漑して以て憂いを忘る。其の余は詩を誦し、文を読んで、以って自ら楽しむ。」「ああ余の生まるるや、幕政混乱の際にあり。後、政体一変し、明治維新をへて今日に至る。往事を回顧すれば、まさに隔世の感あり。そして幸いに優遊（のんびり）して余年を送る。…」と。

以上のように、神河庚蔵は優れた業績を残すとともに、有意義な人生を送った阿波の名医と言えよう。

（徳島大学医学部同窓会青藍会会報第六四号：四五～四六ページ、二〇〇四）


鷹は官の預り物にて獲物によりて餌料の法あり病あれは疾治の方もあり善く馴致したるものは放つて遠き樹上にあるも餌壺を叩けて飛ひて歸る樣神速なるは心持の能きものなりと云ふ經緯は普通赤色なれとも鶴を獲れは紫色を許さると

獵期は秋に始り春に終る此期間に鶴三十八羽を獲たる人さへありたりと又鷹とて一樣なる者に非す能く馴れ能く獵する者を預り而して其鷹の性を知り得たるは此道の榮譽にして君前に面目を施すこと多かりしと

鷹匠姓名左の如し

鷹匠町	佐野文蔵	嘉永年中格録召上	松田高吉
紺屋丁	長濱能太	鷹匠町	香川周八
中屋敷	赤堀邦助	嘉永年中格録召上	伊藤一八
伊賀丁	東村源作	定番請丁	鷄山多吉
中屋敷	佐野惣右衛門	伊賀丁	森安次郎
裏中丁	大津木近太郎	同心丁	本田利五郎

六九五

図４　鷹狩に関する記述

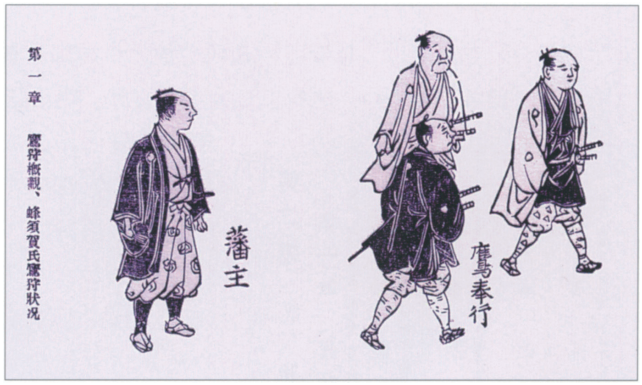


図５　鷹狩に関する戯画（藩主、鷹奉行）

図６　鷹狩に関する戯画（鳥見）

Dr. KAMIKAWA Kozo

Dr. KAMIKAWA Kozo (1851-1926) was born in Tokushima, Chinese literature and Confucianism in his youth, and entered Tokushima Clan Medical School in 1870. Due to his excellence, he could enter former Tokyo University as a government-sponsored student in 1871. After graduating, he continued his studies under Dr. SASAKI Toyo and British Dr. William WILLIS.

When the Tokushima Medical School was established (1880), he was invited from the principal, MIURA Koichi, to become the Prof. for medical care and education. After that, he opened his own medical office in Tokushima (1889). He also served as the first president of the Tokushima City Medical Association (1908-1910), when the vaccination of smallpox was socially required. He also contributed much in the public health, such as epidemics and proposals for the construction of water and social systems.

In addition to medicine, KAMIKAWA was well versed in culture, and he published “Recent Cultural Matters in Tokushima” (1915). He summarized historical facts such as the clan's history, economy, scholarship, literature, art, religion, customs, events and people. This book has been evaluated one of the best achievements, where only one practitioner managed to complete. He was also an essayist and had a meaningful life in medicine, medical practice, social activities and culture.